三笠ニュース

発行所
東京都千代田区猿楽町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京（292）1411 大代表
テレックス 222～4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

謹賀新年

三笠産業株式会社
取締役社長 京谷達也

新年明けましてお目出度うございます。皆さまにはお揃いで新しい年をお迎えになったことと存じます。

旧年中は三笠の製品に格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。顧みまするとと、昨年は会社といたしましても、私個人にとりましても、いろいろと多くのことがあった大変に多忙のうちに過ぎ去ったと言う感じのする一年でありました。歳と共になにか一年の過ぎるのが早くなるような気がいたします。

昨年五月には、春日部工場が市内から春日部市の造成した豊野工業団地内の新工場に移転。長い間の念願を漸く果すことができました。これも皆さまのご援助があればこそと喜び勇んで生産に励みまして、秋にはこの新工場に移ってから第一号の新製品、MR－7D／7Gバイブレーションローラーを送り出すことができました。喜びのあとに来た悲しみ。翌月の六月、頑健そのものであったような小林専務の死去。館林工場の代表取締役として長い年月、工場の運営にたゆまぬ努力を傾注して来た大黒柱でした。一昨年末の京谷会長夫人に続いて、半年後の度重なる悲報に私どもは言いようのない悲嘆にくれたのですが、後任の斎藤工場長のもと、揺るぎなき体制を堅持し、いささかも生産に支障をきたすことなく、ご迷惑をお掛けせずに参ることができました。これも一重にご協力頂いた皆さまのお蔭でございます。昨年六月の三笠の新年度に際し、国内営業部を二つの部に分けて、より一層肌理のこまかい営業展開を心がけると共に、これに対応する生産の強化、製品の見直しを狙って生産管理部を新設いたしました。技術部との協力による、これからの成果にご期待頂ければと存じます。

昨年七月をピークに景気の動向は下降線を辿ってきております。景気の先行きはまことに余断を許さぬものがあり、更にこのまま低迷するのではないかとも言われております。安定成長と言うと聞こえはいいのですが、低成長に追討ちを掛けるような円高で、ますます厳しい情勢となって参りました。私どもの建設機械業界もご他聞に洩れずと申し度いのですが、世間の不況よりも以前から続く長いトンネルから、なかなか抜け出せぬまに、更に一段と厳しい状況のなかに投げ込まれたようなもので、厳しいなどと言う表現は通りこしているのではないかと思います。私は昨年の仕事始めの日に、各自がそれぞれの立場で創意工夫をこらし、二十一世紀までに更に業績を伸ばし、躍進することを目標に掲げ、小さいことに拘らず、足もとばかり見ていないで、大きな力で全社を挙げてこれに取組む努力をして欲しいと話しました。昨秋、創設一周年目を迎えた東京三笠レンタル会総会に於いて、ローラーとカッターのニューモデルならびに高周波小型自振モーターFJ80等バイブレーター関係の新製品を発表し、これら新製品は好評をもって迎えられ、お蔭さまで業績の方もわずかですが前年を上まわっております。円高の影響をはねのけるためにも、更なる企業体質の強化は勿論のこと、それぞれの製品を構成する部品一点一点の見直し、これと併行して新製品の開発など、遂次積極的に取組み、問題を地道に一つずつ解決して参りたいと思っております。

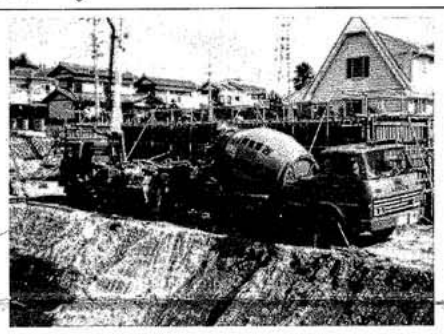
この他に今年の計画といたしまして、西ドイツのミュンヘンで四月七日から一週間に亘って開催される世界的規模の建機展「バーマ86」に参加することを決定いたしました。三笠の主力商品を展示して、この機会にヨーロッパをはじめ世界各国の皆さんにじっくりと見て頂こうと思っております。これらの計画には皆さまのご協力を仰がねばならぬこともあろうかと存じます。今年は波乱の年になりそうな気がします。三笠は昨年実施した新編成のもと、勇気と決断と実行でこれに立向って参ります。どうぞ今年も変らぬご愛顧とご支援を何卒お願い申し上げます。

新製品「トントン」好評
高周波小型自振モーター
壁打ち作業に活躍

コンクリートの壁打ち専用の外部取付バイブレーターとして、昨年夏に登場した高周波小型自振モーターFJ80は、ペットネームも「トントン」と決まり、その名の如くトントン拍子の出足。現場で実際に使ってみながら、だんだんに積み重ねられた数字としては表わすことのできない性能。使い勝手の良さは、長年に亘り培われたバイブレーターの三笠の製品の伝統。力の強いことも評判となって各地で愛用されている。

浜松

宅地造成の現場でFJ80「トントン」が使用され、工期の短縮に役立ち、その上、仕上り状態も満足されていると言う明るいニュースが静岡県浜松市からもたらされた。この現場は浜松市幸町地内で宅地造成が行われていて、このなかの調整池のコンクリート打ちを、中村建設さんが文化の日の翌日十一月四日に行うことになり、我々も立会ってこれをレポートすることになった。



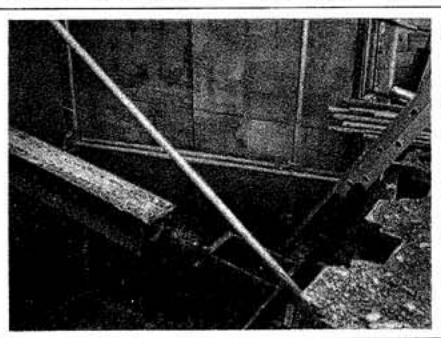
（打設現場の全景）

構築するのは高さが6.35mの垂直壁。壁の厚みが上端で25cm。下の方が65cmで勾配を持った厚い壁で、長さが30mある。この高い壁のコンクリート打ちを一日でやってしまおうと言うことである。そこで内部用のバイブレーターだけ使っていたのでは振動の行き渡らない個処もできる。外部からも振動を与えようと言うことになり、登場したのは軽くて、しかもこのクラスの高周波小型自振モーターとして、昨年夏に登場した高周波小型自振モーターFJ80は、ペットネームも「トントン」と決まり、その名の如くトントン拍子の出足。現場で実際に使ってみながら、だんだんに積み重ねられた数字としては表わすことのできない性能。使い勝手の良さは、長年に亘り培われたバイブレーターの三笠の製品の伝統。力の強いことも評判となって各地で愛用されている。

（ずらりと取付けられたFJ80「トントン」）

J80「トントン」である。この日、使われた10台の「トントン」は㈱レントさんの浜松営業所から中村建設さんがレンタルした新品。生コンを投入する側からFJ80が2mピッチで二段に取付けられる、約2分振動させるとスイッチを切り、素早く次の場所へと順次盛替えされてゆく。予め定められた取付位置と振動時間の通り作業は進行し、きわめて効率のよい仕事ができた。今回の現場は、騒音の問題ならびに経済性もからんで工期の短縮を計ることが目標のひとつになっていた。本日のところ、どうやら目標は達成できたようである。後日、脱型した後のコンクリートの表面仕上り状態は充分の満足を頂け、我々も会心の出来と思った。現場の方からはこれからもいろいろな場所で使ってみたいとのお話しを伺うことができた。

和泉 記

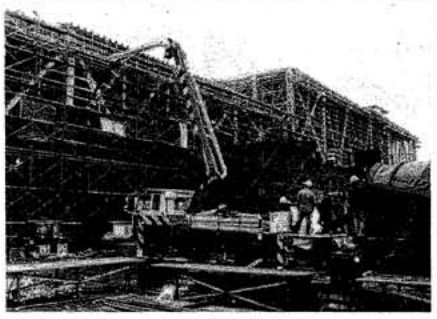


（仕上りの状態）

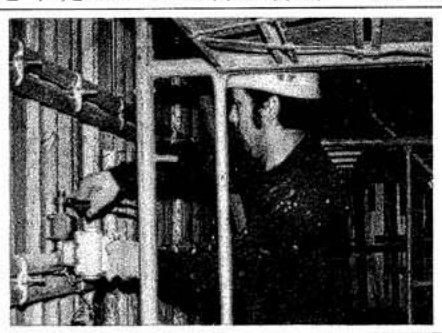
越谷

寒冷前線が通り過ぎて、冬型の気圧配置となって、季節風が吹き荒れる十一月二十九日早朝の街路には枯葉が乱舞している。フロントグラスの向う側が明るくなった頃には都内を出た。埼玉県に入り日光街道を下る。信号ケーブル切断のゲリラ事件で電車の走っていない武蔵野線のガードを潜ったあたりで右折すると遥か彼方に大きな建築中の建物が目に入った。ここは埼玉県の越谷市にある倉庫団地協同組合の流通業務団地。いくつもの倉庫の建築現場がずらりと並びなかなかの壮観である。この建築現場群のほぼなか程にある増田建設さんで、朝から壁のコンクリート打ちが行われ、これに三笠の高周波小型自振モーターFJ80「トントン」が使われる。今日コンクリートを打つ場所は一階の立上り。打設量は200㎥とのこと。使われるFJ80「トントン」は五台。FC－3型コンバーターを高周波電源としている。コンバーターは建物の外部の主電源の近くに置かれ、そこから打設する現場まで延長コードがのびている。延長コードの先には防雨型のコネクターが五つ付いた分岐コードが直列に二本接続され、コネクターは合計十個配置されている。従って五台のFJ80「トントン」は次から次へと、空いているコネクターに接続しながら打設場所の動き出し、220mm厚の壁面にコンクリートが注入されると、2m間隔に取付けられたFJ80「トントン」のスイッチが一斉に入れられた。スランプ18cmのコンクリートを揺するので心なしか重い音に感じられる。撮影終了後に外へ出てからも「トントン」が動いている音が聞こえた。小さな割には結構大きな音がするものだ。それだけ力が強いということであろうか。コンクリートの流れに応じてFJ80「トントン」を単管パイプからはずして次の場所に盛替えてゆく。まことに手慣れたように見える。取りはずした「トントン」を両手でせき板のあちこちに押しつけ振動を与えている。理由を尋ねたら、すぐに次の場所に移し替えるのはもったいないとの答。余裕のある仕事ぶりである。スイッチを切り、「トントン」を取りはずし、ついでコネクターからプラグを引抜いて、「トントン」を次に振動させる場所まで持って行って再びコネクターにプラグを接続し、単管パイプに「トントン」をしっかりと固定してスイッチを入れる。文字にするとこうなるが、手順よく素早い動き。ストップウォッチで計ったわけではないがこの間一分足らずである。動作に合わせてシャッターを押そうとすると、ストロボの充電の方が遅れ勝ちになるスピードぶりであった。この倉庫の完成は六十一年二月なかばとの事。FJ80「トントン」を使った仕上り具合が楽しみである。

神田 記



（コンクリートを送り込む）



（素早い取付け）

（かるがると持運び）

建設機械展示会（高松）盛大に開催さる

十一月十四日～十八日

日本建設機械化協会主催の建設機械展示会が当協会四国支部創立十周年を記念して、六年振りに四国高松において、十一月十四日～十八日の五日間開催されました。

当地では、今年は懸案の四国架橋の一部（淡路～鳴門）開通もみられ世紀の大工事も急ピッチで進められております。

現在は四国側の取付道路、縦貫道路の施工に大童の現況です。が、しかしここ数年の公共工事の低迷振りも影響してか、又この展示会もマンネリ気味で今一つ気勢も上がらず、出品会社も三十九社を数えるのみ、近来にない小規模のものになりました。

三笠としては、機会ある毎に出来るだけ多くのユーザーさんに、三笠製品に親しんでいただく、との考えのもとに出品しました。

三笠の展示小間の規模も従来のこの種の展示会に比べて小さなものとなりましたが、多くのメーカーの出展辞退が相次ぐ中で、単独出展は現況の中にあっての積極性をPRするよい機会になったと考えております。

今回は特にFJ80型高周波自振モーター、FW－220型高周波エンジンゼネレーター、KN－6000型低周波インバーター、MDS型（電直）前面密閉型バイブレーター等の新製品と、モデルチェンジしてシエアアップを計るMR－7G・7D型を出品して、内容は従来に比して決してひけをとらないものと自負しております。

（説明に忙しい三笠の小間）

来客数も予想より少ない展示会ではありましたが、当地では実績の少ないFJ80型高周波自振モーター（型枠取付用）の将来性をかって引合、質問が集中して中身の濃い商談が始まっておりました。

又、一〇〇Vと高周波用電源の両方に使え、ユーザーさんのニーズにマッチしたFW－220型高周波エンジンゼネレーター（二役）は三笠独自の他の追随を許さないものだけに注目を集めました。その意味では当初の成果があげられたものと考えております。

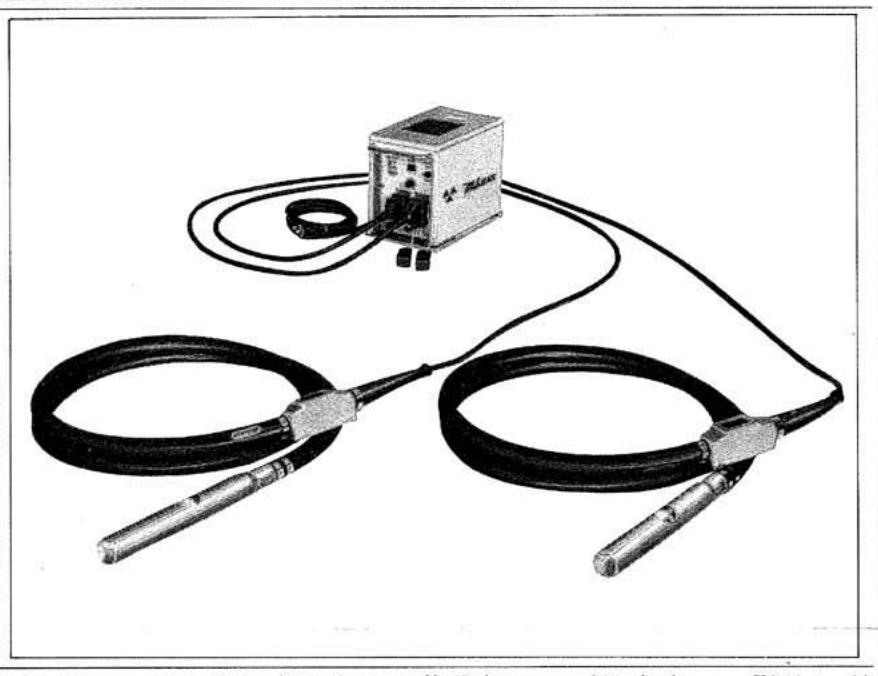
この展示会を機に地元四国のお取引各社には、何卒三笠製品の幅広い商品群を武器に、より拡大販売にお力をお借りしたくお願いする次第です。

三笠建設機械　野崎記

（高松展正面入口）

手軽な高周波電源発生装置

交流100ボルトで使える高周波バイブレーター
自己診断機能を持った
インバーター　FU－1500



単相交流100Vの電源から高周波電源に変換できる装置がいま話題を呼んでいる。

FU1500インバーターと呼ばれるオレンジ色の三笠カラーに塗られた小さな箱。これを100V電源に継ぐだけで、たちどころに高周波バイブレーターやFJ80高周波小型自振モーター「トントン」をまわすことができるのでまことに手軽に扱えるようになった。

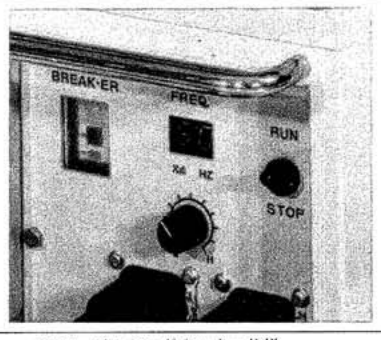
単相100Vならば、周波数は50HZでも60HZでもどちらでもそのまま継いで使える。振動筒径40㎜の高周波バイブレーターを2本ぐらいまわす軽い負荷の場合は、プラグを家庭用のコンセントに差込める普通のものにして、高周波バイブレーターを使うことができて、仕上りの良いコンクリート打ちができるのである。勿論、たくさんの高周波バイブレーターを動かすときは、25A以上のブレーカーのある電源に接続する必要がある。

高周波バイブレーターと接続する出力側は三相48Vの安全電圧に下げられている。周波数は180HZから240HZの範囲で、ダイヤルの調整ひとつで自由に変えられる。現在の建築物は、耐震性を向上させるため配筋が緻密になっている。このため、振動筒の細いバイブレーターのほうが使い勝手がよろしい。また、細い方が目方も軽く疲労の度合も少いのは理の当然である。細いバイブレーターも周波数を変えることにより、太いものと同等の効果を挙げ得ることも既に知られているところである。

FU1500インバーターを使うと、コンクリートのスランプに適合するように高周波バイブレーターの振動数を変えたり、作業条件によっては、その力の強ささえも思いのままに変えることができるようになったのである。扱いよう次第ではなかなか面白いものである。

出力側の周波数はFU1500の前面パネルに2桁のデジタル表示であらわされる。この表示された数字を4倍すれば発生している周波数を知ることができるのである。例えば45が出ている場合、45を4倍して180HZとなる。50では200HZ、と言う具合に正確な周波数が判る。そして、このデジタル表示の数字は左の表のように自己診断をも示して、大きな事故に継がることを防いでいるのである。

表示数	故障原因
40	オーバーヒート
20	入力電圧低下
10	過電圧
08	過電流
02	制御異常
01	



（インジケーターの数字は50で200HZを示している）

出力側に過負荷が掛った場合の保護装置が内蔵されていて、デジタル表示の数字が40または08になったときは、自動的に運転が停止する仕組みとなっている。このようなときは直ちにスイッチを「STOP」側にしてから、オーバーヒートまたは過電流になった原因を調べ、その原因となるものを排除、修復してから運転を再開すればよいのである。

このようにして、FU1500自体の損傷を未然に防ぐことができるので、故障の発生も少く、保守も容易となる。内部に収納されているトランスとインバーターは、温度上昇を避けるために分離されている。更にファンを使って強制冷却された、半閉鎖型の構造となっていて、防塵の効果も狙っている。しかし、全密閉ではないので、雨のなかでは使えないのが、唯一の弱味とでも言えようか。しかし、雨が降りしきるなかで使うことなどあまりないことなので、とりたてて言うほどのことではないと思われる。

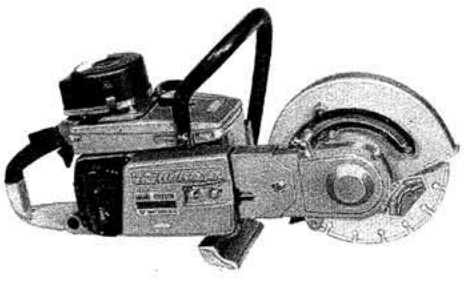
MCH－10A ハンドカッター仕様

使用ブレードの寸法（ミカサゴールドブレード）	径 254㎜（10″） 厚 2㎜
最大切断深さ	86㎜
長さ	710㎜
幅	203㎜（センターカット時） 262㎜（サイドカット時）
高さ	335㎜
重量	10.3kg
使用エンジン	タス EHC－506 リコイルスターター付
最大出力	3PS/7500r.p.m
排気容積	50.2cc
燃料タンク容量	0.6ℓ

FU－1500 インバーター仕様

	一次側	二次側	使用し得る振動機の本数
電圧	100V（単相）	48V（三相）	30型 5本
電流	25A	18A	40N型 3本
出力	――	1.5KVA	50N型 2本
周波数	50／60HZ	180～240HZ	60N型 1本
全長	490㎜		
全幅	230㎜		
全高	320㎜		
重量	25kg（コードを含まず）		
プラグ差込み口	2口		

粧いも新たに登場
使い易さを追及した
ハンドカッターMCH－10A



10インチのブレードを取付け、コンクリート製品から鋳鉄管など、いろいろな切断に使うハンドカッターがマイナーチェンジされ、型式もMCH－10Aと変って昨年十一月より新たに登場した。

今回のマイナーチェンジでは主としてエンジンのリコイルスターター、エアクリーナーまわりなどと、ブレードをまわす伝導部分などに改良が加えられた。以前のMCH－10との識別のため、塗装色がオレンジの三笠カラーから鮮やかな真紅のスカーレットに変った。

エンジンそのものの排気容積は50.2ccと変らず、ボアもストロークも同じだが、点火時期を見直し、点火プラグをBPM－7EからBM－7Aに変更。これと共に気化器のメタリングニードルの開度も、わずかに開きの側にセットされた。出力もトルクも変らないが、このチューニングにより、エンジンの性格が変ったとでも言おうか、とにかく使い易くなったのである。

エンジンの出力軸側とブレード軸側のプーリー比を0.85おとして、1.51から1.767にしたことも使い易さに大きく影響した。自動車に喩えれば、いままで5速で走っていたものを4速にして、エンジンにゆとりを持たせたようなものである。

クラッチハウジングも手を加えられ、クラッチドラムの軸受と共に、ニードルベアリングが使われ、摩耗に強くなった。スライドガイドにも補強が加えられ、ブレードカバーの取付部ががっしりした感じになったのが外見からもよく判る。その他に外側から見て変った個所は、エアクリーナー全体の取付位置が低く下げられたことである。これは、気化器との間に入っていた継手が無くなったので、スッキリした形にまとまった。

気化器のチョークレバーは大きくなって、いままでより操作が楽になったのも使い勝手の向上につながる。

リコイルスターターには防塵対策が施され、これと共にスプリングが強くなって、ロープから手を放したとき、より確実に巻込みができる。これによりロープがプーリーの外側に巻付くことが無くなった。ロープ切れの対策ともなると思われる。

MCH－10A型になって重量は僅かだが増加している。しかし、旧型に比べハンドルの形状が改良され、持った時のバランスが上手くとれているので、ハンドルを握り、ハンドカッターをぶら下げた感触では、目方が増えた感じがしない。扱い易くなったと言おうか、作業時にバランスのとれた安定感が高まった。

あまり目立たないところであるが、フットバーが大きくなって、ハンドカッターを地面に置いた時の座りが良くなった。作業には直接に関係のない改良であるが、置いた時にグラついて安定を欠くこともなくなり、落付きが良くなった。使い易さを追及してここに登場したハンドカッターMCH－10Aは、旧型に比べ数値に示す性能は変らないものの、今回のマイナーチェンジにより、ゆとりのある感じとなった。

巴里 駆け歩る記

昨年初夏、フランスとイギリスへ技術の戸上君と短期間の出張をした。多忙な日程であったが、「なんでも見てやろう」と好奇心旺盛に赤ゲットぶりを発揮して歩き回わった。

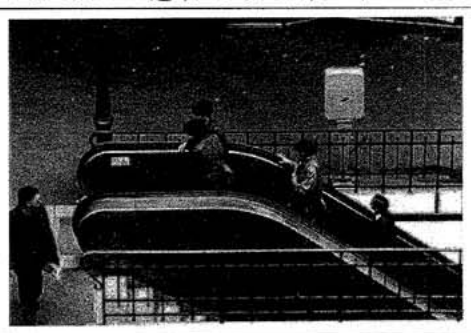
花のパリの旅人宿

狭い機内からやっと解放され、薄く霧のたちこめるドゴール空港から高速道路をひた走り。日曜の早朝のこととて道路はがら空き。とばし過ぎた車が二台の白バイにつかまっていた。いずこも同じ。しかし、ちらりと見たお巡りさんの乗ったオートバイは白く塗ってなかったようだった。花のパリ、憧れのパリは灰色に薄よごれた朝の素顔を我々の前に見せた。モンマルトル大通りに面したホテルは三つ星とか四つ星とか出発前に聞かされていたが、地下鉄の出入口の階段のすぐそばにある間口一間ほどのドアを押して案内されたときの私達の驚き。ドアボーイがさっとばかりにトランクを持って、なんて言うのはともかくとして、ロビーと呼ぶような場所も無く、鰻の寝床のような狭い通路の突き当りにフロントがあった。私達が頭に描くいわゆるホテルらしい華やかさとはおよそ縁遠い。小さなエレベーターも乗込んだ籠に扉がないので、突然に壁が動き出す。その昔に見たフランス映画に出て来るような、うらぶれた感じが気に入った。滅多にこう言ったところには泊れないだろうから、気兼ねなく旅の気分を満喫することにした。

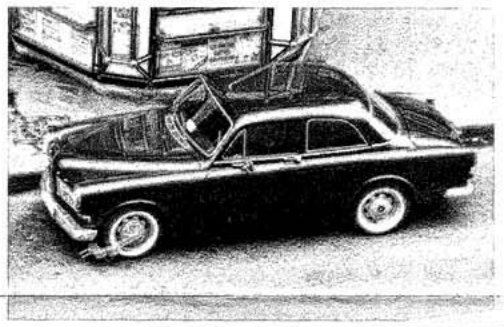
（ラッシュアワー前の朝のモンマルトル大通り）

地下鉄タダ乗り

モンマルトル大通りの歩道にぽっかりと大きく口を開けた地下鉄の階段とエスカレーターがある。これには屋根がないので雨ざらしになるのだろう。エスカレーターが早く傷みはしないかと、余計なことが気になる。地図を片手にモンマルトル駅から地下鉄に乗込んだ。プラットフォームに大きく駅名の標示はしてあるが次の駅名が書いてないのが不便だし、電車の行先標示も判らない、実は読めないのだが。専ら地図と首っ引きで止った駅の数を数えることにした。ジャンパー姿で私はショルダーバッグを肩に掛け、戸上君はナップザックを背負っている。風採のあがらない東洋人が電車の乗り場を尋ねても、こちらの人は大変に親切で、なかには子供を待たせたままでお父さんらしき人が目的のプラットホームまで連れて来てくれたのには感激。二つ目の駅で乗換えて、更に三つ目の駅カルデ・ノールで今度は高速地下鉄に乗ろうとした。そこではたと困ったのは目的地の駅名がなんとも読めない。地下鉄は均一料金なので回数券を買ったが、こちらは目的地を告げなければ切符が買えない。止むを得ず路線図の目的地を示してなんとか切符を購入。見れば料金のところがボールペンで訂正されて半額になっている。どうしたことだろうか。でも安いことなら結構と改札口を通る。地下鉄の改札口もそうだが、この駅も自動改札で、切符を入れると向う側の口から飛び出し、乗客は横棒を体で押し下げて通過する構造で、日本でもお馴染みのものである。往きはこうして難なく通過。カルデ・ノールの構内は広くてプラットフォームがいくつもある。ここでも乗り場を尋ね、目的の階段のところまでご親切に若い男性が案内してくれた。フォームは地下にある。反対側のフォームには二階建の列車が停っていた。近鉄のビスタカーは一部分だけの二階建だが、こちらのは全体が二階建になっている。乗ってみたいと思ったが、残念ながら目的地へ行くのとは違う。間もなくきれいな色に塗り別けられた列車が入って来た。暫く走ると地上に出て、パリ近郊に向け北上する。さて帰りに再びカルデ・ノールで自動改札口に切符を入れた。切符は向う側の口からピョンと飛び出す。ところが腰で横棒を押してもこれが下がってくれない。故障だ、隣りの改札口を試す。これも駄目。仕方がない二人して横棒をまたいで乗り越えた。後にいた人達も私達を真似て乗り越えてくるではないか。さてはこの自動改札はちょくちょく故障するのかと思ったが、今度はモンマルトルの駅で降りるときになって、地下鉄の切符の改札を受けていないことに気付いた。幸い地下鉄の出口は一方開きの扉があるきりで駅員はいないので助かった。カルデ・ノールで地下鉄へ乗換へるときに自動改札口へ入れたのは高速地下鉄の切符だった。あそこでは地下鉄の切符を入れなければ横棒は下りてはくれないので、故障と早合点した私達はパリへ着く早々に薩摩守をやったことになる。若し駅員につかまっていたらどんなことになっていたことやら、知らぬこととは言え悪いことをしたものである。



（エスカレーターが露出した地下鉄の入口）



（前輪をガッチリつかまった駐車違反の自動車）

ところが後日、故意に無賃乗車をしているところを目撃した。夜遅く、シャンゼリゼに近い地下鉄の構内でのこと。戸上君が切符を買って来るのを待っていた。見るともなしに改札出口の方に目をやっていると、出口の方に向けて一方にしか開かないようになっている扉の外側から、先端が曲っている針金を差込んで扉を開けようとしている赤いマントを着た小柄な人影がある。後ろ姿なので、若い女が何をしているのかと興味を持って眺めているうちに、扉を細目に開けて出口専用のところからプラットフォームへの通路へ身体を滑り込ませた。私の視線を感じたのか、こちらを向いて、一瞬ギョッとしたように立止った。見ると両手にミカン箱位のダンボール箱をぶらさげた老婆である。赤いマントを着ているので、若い女かと思っていたのが、絵で見る魔法使いのように鍵鼻のしわくちゃの顔のなかで眼だけが光っている。駅員に見つかったのではないと安心したのか、すご味のある眼で「見たな」と言わんばかりに私を目据えると、そのまま何事も無かったように両手にダンボール箱を下げて、すたすたとプラットフォームの方に歩き去った。深夜の地下鉄はこわいと聞かされていたが、あんな手合が無賃乗車をしているのか、とすると深夜の地下鉄の車内で騒いでいる少年達もあるいは……と思うと急に薄気味悪くなり、モンマルトルの安宿に急いで戻った。

迷子になって

昨日は調子良く道も間違えずに目的の駅パルデ・ポジション へ行くことができた。自信を得た二人は朝食もそこそこに地下鉄でカルデ・ノールへ辿り着く。月曜日の朝のラッシュアワー。市内へ向かう人の波に逆うようにして昨日覚えた通路を進み、プラットフォームで高速地下鉄を待つ、行先を示す電光板にはロワシー・エアポートともう一つ何か書いてあるが私達には判らない。制服を着た人がいたので尋ねたら知らないとのこと、駅員ではなかった。後でこの制服と帽子は警察官ということが判ったが我ながらドジなこと。そう言えばこちらの駅員は制服を着ているのを見かけない。電車が入って来たので乗込んだ。またも路線図と首っ引。駅へ着く毎に駅名標示板と照合。違っていないのでほっとする。日本と違って駅でも車内でもアナウンスが無いので静かなことに昨日から気付いていた。もっともアナウンスがあっても私達には判らないのだが。三つ目ぐらいの駅で珍らしくアナウンスがあった。あたふたと乗客が降り、進行方向の左側のホームに行くのが見える。電車も暫く停っていた。乗換え駅らしい。車窓左側の道路にエアコンプレッサーが置いてある。工事現場らしいと思って昨日も見ていた風景だが、昨日は電車が道路に添って停車したので、工事現場やコンプレッサーがもっと近くに見えたが今日は停車している線路が違うのでエアコンプレッサーが遠くに見えている。そのうちに発車したが走り去る窓外の風景が違うのに気付いた。昨日はこの駅を発車すると一たん地下を走った記憶があったが、どうもおかしい。次の停車駅で駅名と地図を照合した。やっぱり違っていた。気付いた時は既に駅を二つ程間違った方向に走っていた。見知らぬ駅で降りて、今来たところまで戻らなくてはと思ったが、いっこうに電車が来ない。戸上君が若い男のフランス人に話しかけたが英語では駄目。そのとき、妊婦服のようなのを着た奥さんを連れた若い男の人が「ワタシ、日本語スコシデキマス」と近づいて来た。やれやれ助かった。その人が先程の若いフランス男性に尋ねてくれたが、二つ目の駅でロワシー行きに乗換えろとのことだった。奥さんを連れた若い男はアルジェリアで日本の建設会社の社員食堂で働いていたらしい。バカンスでパリ見物に来たと、たどたどしい日本語で話して聞かせた。「悪い仕事だ」「スシ、テンプラ、ヤキソバ、ナンデモデキル」と寿司を握る手振りの話に電車が来るまでの長い時間と道を間違えたいらだたしさをまぎらすことができた。先程戸上君が話しかけた若い男は、私達が乗換える駅に着くと、あちら側のホームだと身振りで教えてくれ、車窓から手を振って別れていった。入口近くの席に腰かけていたアルジェリアから来た奥さんを連れた男は私達のサヨナラの挨拶に「オオキニ」と大阪弁で答えたのには驚いた。

（粋なデザインの高速地下鉄）

エッフェル塔とお子様ランチ

パリに来たからにはエッフェル塔に登ってパリの夜景を見ながら食事をしようと相談が決まり、二人して夜の街へ出かけた。夜といってもこの時期、午後七時や八時では東京の午後五時頃の明るさなので、夕方がいつまでも続いているような感じである。エッフェル塔を遠く望み、前景に墳水を設けるなど、周囲の風景も素晴らしい。東京タワーのように塔だけがポツンと建っているのとは違って絵になる景色である。エレベーターを二階で降り、今度はガラス張りのエレベーターに乗換え最上階まで登る。ガラス越しに足もとを見ると、眼下のセーヌ川に浮かぶ船が小さく見える。宙に浮いているような具合で気持のよいものではない。風も出てきたようである。漸く暮色の漂って来たパリの街に灯が浮かぶ。遊覧船だろうか、電灯を一際明るく点した船が二艘セーヌ川を行く。私達の他には日本人の新婚さんらしきカップルが三組とアメリカ人の観光客が子供連れで賑やかである。再びエレベーターに乗り、今度は一階で降りる。一階と言っても地上ではなく、上りのエレベーターが最初に停る階である。セーヌ川がよく見える場所にレストランがあった。満席のようだったがテキパキとした感じの中年のウェートレスがセーヌ川を見おろす窓際に席をとってくれた。メニューに目を通してもどんな料理が出てくるのか判らない。日本みたいにサンプルケースに陳列されていると助かるんだが、まわりの人達を見てもワインやらコーヒーを飲んでいるので参考にならない。ステーキの定食とおぼしきメニューを指さしてオーダーする。この料理55フラン。馬鹿に安いのが不安である。先程のウェートレスがワインは何にするかと注文をとりに来た。「この料理に合うワインをください」と書かれた会話集の頁を指さす。彼女はニッコリ笑って、わかったと言う素振り。今度はボルドーと何とかと、どちらにするかとのお尋ねであるが、どっちでもいいや。えい、とばかりに「ボルドー」。やがてステーキが私達のテーブルへ連ばれて来た。「お子さまランチだ」戸上君が笑いながら叫ぶ。薄いステーキの中央に三色旗にエッフェル塔をあしらった小旗がつき刺してあるではないか。子供の頃デパートの食堂で食べたあれだ。とにかく夕食にありつけた。乾杯。「ワインの味はどうだ」と彼女。「ベリ・グッド」ステーキの方はベリ・グッドどころか筋だらけで硬いのでワインで流し込む。斜め前の席で妙令の婦人が化粧を直している。見ると髪に三色旗の小旗を差しているのがちょっと小粋だ。こちらは髪の毛に差しても落ちてしまうので、ジャンパーの胸につけてみた。帰りしなにウェートレスの彼女が目ざとく見つけて「ベリ・ナイス」と手を差しのべた。フランス女性と初めて握手をしたのである。

森 記

（午後八時頃のシャイヨー宮附近よりの眺望）

サービス満点　機械の診断
山中産業の展示即売会

冬本番さながらの冷い北風が須賀川の街に吹きすさんでいた昨秋十一月十三日㈬。こだけは熱気ムンムン。福島県須賀川市森宿のグリーンモール屋外売場でこの日、山中産業さんの郡山営業所主催の展示即売会が行われた。三笠製品を主にとりあげて開催されたこの展示即売会は、いままでのありきたりのやり方とはちょっと違っていて、製品を並べ、そして実演をするだけではない。お客さんのお持ちになった機械を、その場で点検診断をする。ちょっとした簡単なところは即座に調整整備しましょう。と言うことで、事前にPRがゆき届いていたせいか、肌をさす寒風のなか、工事の最も忙しい時期であったが、大ぜいのお客さんがお見えになった。

高周波バイブレーターの移動電源として使う高周波発電機の機能に加え、単相交流発電機としての能力も併せ持った新製品FW－220「二役」をはじめ、いま話題の中心となっている前後進型バイブロコンパクターが注目されるところとなった。

これらの高周波バイブをはじめとするバイブレーターグループ、そしてコンパクターなどの輾圧機械グループと、多くの三笠製品をお買上げ頂くことができて、この日の展示即売会は盛況裏に無事終了した。これも一重に山中産業さんの日頃のご努力の賜物と深く感謝しております。

仙台出張所　菅原記

㈱三金
東商品センター新築落成

伊藤社長と新社屋

当社の有力代理店の㈱三金さん（伊藤武男社長）ではこのほど都内江戸川区に東商品センター及び江戸川営業所の新社屋を新築落成され、十一月二十二日午前十一時より同社の納入関係会社約百社を落成された新社屋に招待し盛大な竣工披露宴を行なわれました。

新社屋は江戸川文化センターの並びに位置し、交通の便が良く物流に適した所であり、約1000㎡の敷地に延べ床面積約500㎡の事務所と倉庫があり、倉庫内の一階は広々とした多用途に使えるフロアーであり、二階には数多くの整理棚が整然と並んで在庫商品の豊富さと管理の良さが一目でわかる商品センターであります。

伊藤社長のご挨拶の中で、今までは杉並のセンターで関東一円の商品管理を行なっていましたが、よりスムーズな物流を計るためこの江戸川区に関東東部地区を一手に引き受ける商品センターを設けました。とのお話であり、又この江戸川に営業所を置くことにより東京東部のより一層密度の濃い営業活動を行なって行くことが出来る為、今後一層の発展が期待されます。又伊藤社長は物流ばかりでなくデーター等の処理にも大型コンピューターを近年中に導入する事になっており、この分野におきましても期待されております。

三笠製品もランマー、プレート、カッター、ポンプ等多数納入させていただいておりますが、東商品センターと江戸川営業所が開設された事により、一層の販売が期待されます。

神田記

上州の山と湖を巡る旅
昭和六十年　三笠親和会

今年の親和会の旅行は、上州の山と湖を巡る旅と銘打ち、谷川岳、藤原湖、赤城山などを回り、秋の景観を楽しむ旅行が企画されました。

ところが、出発当日の十月六日はあいにくの雨空で、集合場所の上野駅では、天気の悪さをぼやく声もちらほら。しかし、新幹線に乗り込むや、雨雲を吹き飛ばそうとするかのように缶ビールやウイスキーが次々とあけられ、明るく楽しい雰囲気に包まれました。

新幹線を上毛高原駅で下車し、昼食をとることになっている宝川温泉に向かいました。

昼食後の予定は、雨のため仕方なく変更し、つい先頃開通したばかりの関越自動車道の関越トンネルを、バスガイドさんの解説に耳を傾けつつ通り抜けた後、宿泊地の水上温泉、水上館に向かいました。そして、かなり早目の到着となった水上館で、バスの1、2、3号車対抗のボーリング大会が催されました。各チーム選りすぐったメンバーが出場。こちらのレーンで惜しくも狙いが外れてガーターになったかと思えば、あちらでは、お見事と拍手が起こるストライクありと言う具合で、楽しい競技の末、3号車チームの優勝となりました。

ボーリング大会が終ると、皆銘々部屋に戻り、ひと休みした後宴会が始まり、大賑わいのうちに夜は更けてゆきました。

翌七日は昨日の雨が嘘のように晴れ、絶好の旅行日和となり、当日予定されていた日程に、昨日回ることが出来なかった谷川岳が急きょ組み込まれ、バスは水上館を出ると、まず谷川岳へと向かい、ロープウェイのゴンドラから美しい眺めを楽しみました。その後は、上越クリスタルの工場を見学。赤城の大沼公園で昼食となりました。

大沼公園を発つ時刻までかなり間があるため、お腹の虫を満足させると皆、付近の土産物店をのぞいたり湖のほとりを散策したり、さらには腹ごなしも兼ねてか、ボートを漕ぎ出す人やモーターボートでぐるりと回って来る人もおり、楽しい時を過ごしました。

そして高崎駅で新幹線に乗り換え、終始、和気あいあいとした雰囲気の旅行は、無事終りを告げました。

小川記

技術教室
第26回

（コンクリートの壁打ち用バイブレーターについて種類性能などを教えてください。）

コンクリート用バイブレーターには、コンクリート内部に挿入しコンクリートを直接振動させる内部バイブレーターと、コンクリートの型枠に振動を与え型枠を通してコンクリートを間接的に振動させる外部用バイブレーターに大別されます。

今回は三笠にて生産しております外部用バイブレーターの種類、用途及び性能等について御説明いたします。

作業上から考えた場合、コテ付の軽便バイブレーターや型枠ハンマーのような手持式のもの、及び自振モーターのように型枠に固定して使用するものに分かれます。

振動方法としては偏心した錘をモーターの回転で回し、その遠心力で振動を発生させるものが一般的ですが、型枠ハンマーのように電磁石を利用し木ハンマーと同様な往復運動で型枠を叩くものもあります。

作業内容に従い、現場に適した作業機を選ぶ必要がありますので各機種について御説明いたします。

①コテ付軽便バイブレーター

内部用バイブレーターの振動部にコテを付けたもので取りはずせば内部バイブレーターとしても使用出来るため一台で内外兼用となっています。重量は重くはありませんがフレキシブルホースが付いているため、作業性は多少劣ります。

②外直コテ型バイブレーター

モーターと振動部を直結したものでフレキシブルホースが無いため作業性は良いですが重量はやや重いという欠点があります。

③型枠ハンマー

手持作業を連続して行なうため軽量で作業性が良いように作られたものでソレノイドの電磁吸引力（玄関のチャイムや電磁リレーと同様な作用）を利用し木ハンマーのように打撃力でコンクリートに振動を与えるものです。

以上の三機種は手持工具のため作業員一人に一台しか作業出来ませんし、振動の有効範囲も狭くなっています。その代り移動することが容易ですから狭い場所での使用には適しています。

④低周波自振モーター

テーブル、ホッパー、フィーダー等に取り付け、コンクリートの充填や小固型物の移動、ふるい等土木建設以外の用途にも巾広く使用されており、遠心力も18kg～1435kg迄の多くの機種が有ります。

⑤高周波自振モーター

取付、用途とも低周波自振モーターとほぼ同じですが主としてコンクリート二次製品用として振動数を毎分5400～6500回転としたものです。

以上の二機種は型枠に固定して使用し、遠心力も大きいため丈夫に作られているので重くて移動には適しませんが一度設置すれば均一な製品が数多く作れるためコンクリート二次製品の製造に適します。

⑥FJ80型高周波自振モーター

軽量で取付、移動も容易であり、振動力も比較的大きく、建築用の外部用バイブレーターです。取付は21mmのスパナ一本ですみ、重量も自振モーターKJ200－S2P型の13kg（チャック無し）に対し、チャック込みで6kgとなっております。

終りに外部バイブレーターの性能一欄を記します。

	振動数	振動方式	作業時重量	使用法	移動	作業能力	一人当り作業台数	作業者の疲労度	主な用途
①MU/MW コテ付軽便型バイブレーター	12000～14000 rpm	高速回転 小振巾	3.0～6.7 kg	手持	◎	△	1台	△	建築 2次製品
②MB-F100 電直コテ型バイブレーター	7000～8000 rpm	〃	5kg	〃	◎	△	1台	△	建築
③MEH 型枠ハンマー	270打／分	往復動 打撃振動	1.9kg	〃	◎	△	1台	○	〃
④KJ 自振モーター	2850～3450 rpm	低速回転 高振巾	5～51 kg	固定	×	◎	数台	◎	コンクリート 2次製品
⑤FJ400/750 高周波自振モーター	5400～6500 rpm	中速回転 中振巾	20/37 kg	〃	×（△）	◎	数台	◎（○）	〃
⑥FJ80 高周波自振モーター	5400～6200 rpm	中速回転 中振巾	6kg（チャック付）	〃	○	◎	3台	○	建築用